

## 名誉会員との懇親会次第

神奈川県薬剤師会

(と き) 令和3年12月2日(木) 11時30分～13時

(ところ) ホテルニューグランド1階レストラン

(出席者) 「出席者名簿」のとおり

(司会: 竹内専務理事)

1. あいさつ (小川会長)

2. 乾 杯 (鵜飼前会長)

3. 名誉会員ごあいさつ (松本名誉会員)  
(天野名誉会員)

4. 閉会の辞 (後藤副会長)

令和3年度 神奈川県薬剤師会 墓参会 出席者名簿

(敬称略)

| 氏 名   |         | 氏 名    |         |
|-------|---------|--------|---------|
| 名誉会員  | 松 本 純   | 会 長    | 小 川 護   |
| 名誉会員  | 天 野 宏   | 副会長    | 後 藤 知 良 |
| 前 会 長 | 鵜 飼 典 男 | 副会長    | 橋 本 真 也 |
|       |         | 副会長    | 長 津 雅 則 |
|       |         | 専務理事   | 竹 内 尚 子 |
|       |         | 常務理事   | 伊 藤 啓   |
|       |         | 常務理事   | 寺 師 三千彦 |
|       |         | 常務理事   | 佐 藤 克 哉 |
|       |         | 常務理事   | 久保田 充 明 |
|       |         | 常務理事   | 塚 本 久 美 |
|       |         | 事務局長代行 | 板 橋 み 雪 |
|       |         | 統括課長   | 矢 崎 朱 美 |
|       |         | 次 長    | 中 山 和 則 |
|       |         | 管理課長代理 | 足 利 恵 美 |

## ゲールツ先生、リッテル先生の墓参会及び顕彰会

平成 27 年 10 月 23 日 公益社団法人神奈川県薬剤師会

[アントン・ヨハネス・コルネリス・ゲールツ先生]



Anton Johannes Corunelis Geerts  
〈1843 年～1883 年〉



ゲールツ先生の墓碑 〈横浜外国人墓地〉  
〔清水平安堂薬局より資料提供〕

### <業績等>

- ① 1843 年 3 月 24 日オランダ生まれ、陸軍薬剤官  
となり、ユトレヒト軍医学校理化学教授となる。
- ② 1869 年（明治 2 年：26 歳）当時、長崎医学校の  
校長 長與専斎の招聘により来日、長崎医学校理化学  
教授となる。 [明治 2 年 5 月]  
戊辰戦争終結
- ③ 1873 年（明治 6 年）、司薬場設置の急務を当局に  
具申し、衛生試験所の設置に尽力した。翌年、東京  
司薬場設立の実務指導に参画した。 [明治 6 年 10 月]  
征韓派、西郷  
隆盛等下野
- ④ 1875 年（明治 8 年）衛生局の依頼で、オランダ人  
ドワルス氏とともに日本薬局方の草案に着手した。 [明治 8 年 4 月]  
元老院、大審  
院設置

- ⑤ 1877年（明治10年）1月より、横浜司薬場等の監督を歴任し、薬学・理化学の实地指導を行った。また、各地の温泉を分析して日本の鉱泉誌を著した。  
1877年（明治10年）末、日本薬局方草案4冊を脱稿した。 [明治10年 2月]  
西南戦争勃発
- ⑥ 1878年～1883年にかけて、「新撰本草綱目」2巻を著した。
- ⑦ 1880年（明治13年）11月、日本薬局方の初めの調査委員6人のうちの1人となり、ドイツ人ランガルト氏やオランダ人エイキマン氏とともに日本薬局方のドイツ語草案の作成に従事した。 [明治13年 3月]  
自由民権運動  
隆盛
- ⑧ 1883年（明治16年：行年39歳）8月30日 その公布を見ないで横浜で病死された。 [明治16年 11月]  
鹿鳴館落成
- ⑨ 1889年（明治19年）6月 日本薬局方公布

#### <経緯等>

- ① 先生は、わが国薬学の創立者で、薬品取締、衛生防疫から海港検疫や消毒法などの法律制定に参画した。日本政府は、勲四等旭日小綬章を贈る。
- ② 長與専斎（内務省衛生局長）は、識見高い助言者の死を惜しみ、横浜山手の外人墓地に白大理石の墓碑を建てて手厚く葬られた。
- ③ ゲールツ先生は、日本を愛し、その生涯を日本に捧げられた。夫人は、山口きわさん（1853年9月9日生、1934年11月16日逝去）、長崎の人で、ゲールツ先生との間に6女があった。
- ④ 本年8月に来会された曾孫シャーロットさんは、ゲールツ先生の6女の一人娘スザンナ・シャイスさんの子供（双子の一人）である。
- ⑤ スザンナ・シャイスさんは、戦前に宝塚音楽学校のバレエの先生で、神戸の住吉に住んでいた。大戦中は、長野県野尻湖の辺りに抑留されていたが、戦後、解放されて、アメリカ軍人と結婚し渡米した。
- ⑥ 無縁墓地となっていたゲールツ先生の墓地を本会第8代会長である清水藤太郎先生が探し当てて、長年、ゲールツご夫妻の墓参を続けて来られていた。
- ⑦ 1976年（昭和51年）3月に清水先生が逝去され、そのご遺志を継承し、同年8月に本会が銅板製の墓碑を改修した。



- ⑧ 日本薬局方が公布〈1886年：明治19年〉されて100年に当たる1986年（昭和61年）8月30日に、ゲールツ先生の墓参会を開催した。（出席者：国立衛生試験所長、日本公定書協会会長、厚生省、日薬会長、県衛生部長、県医師会長、県歯科医師会長、横浜市衛生局長 等）
- ⑨ 以後、毎年命日に墓参を行っていたが、近年は春秋会開会前に墓参を行っている。

◇ 本年（2015年）8月5日 ゲールツ先生の曾孫シャーロットさん来会



〈会長室にて〉



〈横浜外国人墓地にて〉

- ・ 現在、日本には子孫が誰もいないため、家系の足取りを調べる目的で来日
- ・ シャーロットさんはニューヨークに在住しており、福祉施設の仕事に従事

ゲールツ先生                      山口 きわ

・ 長女   ・ 二女   ・ 三女   ・ 四女   ・ 五女   ・ 六女

（日本でオランダ人と結婚し、神戸に住んでいた）

スザンナ・シャイス 〈一人娘〉

（宝塚音楽学校のバレエ教師、アメリカ軍人と結婚し渡米）

〈双子の兄妹〉 ルドルフ・クロスウェル

シャーロット・メイヤー（上記写真の方）



左側がスザンナ・シャイス 〈右側はその母=ゲールツ先生の六女〉

- ◇ 今回の墓参会及び顕彰会に、シャーロットさんの双子の兄ルドルフさんが来日を希望していたが、仕事の関係で出席できないため、次のメッセージをいただいた。

神奈川県薬剤師会の皆様

このたびは、このような形で私の曾祖父アントン・ヨハネス・コルネリス・ゲールツの墓参会に参加させていただけることに感謝申し上げます。

皆様のお力添えにより、私どもの家族の歴史の中でも特別な1ページを紐解くことができ、大変嬉しく思います。

ゲールツが、私の大好きな国 日本の薬事行政の発展にかくも大きな役割を果たしたことを知り得たことは光栄の至りです。曾祖父の功績を誇りに思うと同時に、その足跡を皆様が今日まで大切に語り継いで下さったことに心より感謝申し上げます。

今後は、私たちも皆様とともにゲールツの記憶を将来に伝えて参りたいと思います。

曾祖父が永遠に人々の心の中に生き続けるとともに、その御霊が安らかなることを祈ります。

2015年10月20日

感謝と敬意をこめて

ルドルフ・クロスウェル (アメリカ合衆国アリゾナ州在住)

神奈川県薬剤師会の皆様

私どもの曾祖父ドクター・ゲールツの存命中、天皇陛下を始め日本の皆様が温かく曾祖父を受け入れて下さり、その功績に対しまして敬意を払って下さいましたことに感謝申し上げます。

特に、今回の墓碑改修にあたりましては、故人に対する皆様の並々ならぬ尊敬の気持ちに心を打たれるとともに、薬剤師会の皆様の長年にわたる熱意とご尽力に心より敬意を表し感謝申し上げます。

末筆ながら、貴会の益々のご発展をお祈り申し上げます。

2015年10月20日

ドクター・ゲールツ子孫を代表しまして

シャーロット・メイヤー (アメリカ合衆国ニュージャージー州在住)

## ヘルマン・リッテル先生

Hermann Ritter (1827~1874)



リッテル先生の墓地



新設した墓碑

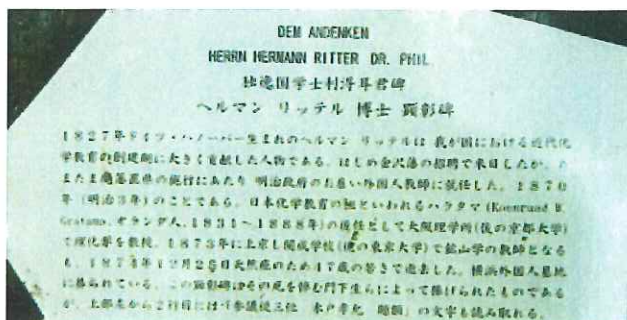
〈横浜外国人墓地〉

### ＜業績等＞

- ① 1827年 ドイツ生まれ、わが国における近代化学教育の創建期に貢献
- ② 1870年（明治3年）金沢藩の招聘で来日し、明治政府のお雇い外国人教師に就任
- ③ 日本化学教育の祖といわれるハラタマ（オランダ人）の後任として、大阪理学所（旧名：舎密局、後の京都大学）で理化学を教授
- ④ 1873年（明治6年）東京開成学校（後の東京大学）で鉱山学科を教授
- ⑤ 1874年（明治7年）12月25日 天然痘に罹り東京にて病死

・ 1986年（昭和61年）のゲールツ先生の墓参会に出席した日本公定書協会の江本龍雄理事が、翌年（1987年）9月発行の『薬壺』に「ヘルマン・リッテル先生のことども」の記事中、リッテル先生の墓参も組み込まれてはと提案があったことを中村晃蔵名誉会員から指摘があり、ゲールツ先生の墓参の時にリッテル先生の墓参を行うこととなった。

・ 近年、春秋会の開会前にゲールツ先生、リッテル先生の墓参を行っている。



明治8年に開成学校の教え子達が建立した顕彰碑 〈都立谷中霊園〉



## ゲールツ博士の墓参り

神奈川県薬剤師会 常務理事 高橋 洋一

港を見下ろす外人墓地の上段にゲールツ博士 Dr. Anton Johannes Cornelis Geertsの墓があります。神奈川県薬剤師会は、この墓を守り命日の8月30日に墓参を続けています。

薬の町と言えば大阪の道修町や東京の神田を思い浮かべますが、明治初頭において横浜が中心的な存在であった時代があります。横浜開港と同時に長崎では扱われなかった新しい薬が輸入されます。田辺・武田など道修町の薬種問屋は洋薬の時代を見越して横浜に進出しました。鳥居は横浜で開業し、三共は絹物業者三名により横浜で設立されました。この時代のことは「横浜のくすり文化－洋薬ことはじめ」(有隣新書

杉原正泰・天野宏)に詳しく書かれています。

明治10年、薬品を検査するため横浜司薬場が整備にゲールツは取り掛かります。1883年40歳の若さで亡くなるまで横浜に在住し、「日本



ゲールツ博士のお墓と記念碑

薬局方」をドイツ語で起案するなど、日本の薬学に大きな貢献をしました。

妻のきわが亡くなってからは子供たちが相次いで横浜を離れるなどして、しだいに墓に詣でる人もなくなり、ついにはそのありかさえもさだかでなくなったそうです。神奈川県薬剤師会の会長であった清水藤太郎博士(昭和51年逝去)は、ゲールツ博士の業績の研究者で、無縁墓地となったゲールツ夫妻への墓参を続け、その意思を継承された清水不二男・当時神奈川県薬剤師会会長が本会に諮り、墓地の管理を永続事業とすることを決議し昭和49年8月30日に墓前祭が行われました。

本年も8月30日に墓参を行います。参加希望者を若干名受付ます。

参加ご希望の方は神奈川県薬剤師会事務局にご連絡ください。

(問合せ先：管理課 TEL：045-761-3241)

※当日は、現地集合・現地解散となります。また、墓参りの時間が限られている為、時間厳守していただける方に限ります。

横浜外国人墓地の公開日時等のお問い合わせにつきましては横浜外国人墓地の公式HP(URL：<http://www.yfgc-japan.com/message.html>)をご覧ください。



## 「舎密局(せいみきょく)」のリッテル先生

神奈川県薬剤師会 常務理事 高橋 洋一

ゲールツ先生のお墓は外人墓地の入り口からすぐ右に入り10mほど行った左側にあります。お参りが済んだら、ついでは失礼ですが、さらに150mほど先の右側にあるリッテル先生のお墓にも参ります。

毎年8月30日はゲールツ先生の命日で、神奈川県薬剤師会の名誉会員をはじめ役員、事務局などで横浜外人墓地に墓参します。今年も暑い日で虫除けスプレーの甲斐もなく蚊に刺されてしまいました。このゲールツ先生、リッテル先生の墓参は、雑誌「薬壺」とホームページでご案内しております。今年の墓参は既に終了しましたが、ご希望がありましたらどなたでもご参加いただけます。

リッテル先生の足跡は当時の人々の文章からも確認することが出来ます。

「夢を追いまもめて」(富山県ひとづくり財団)に

掲載されている応用科学者の高峰譲吉(1854-1922)氏



(ゲールツ先生のお墓)



(リッテル先生のお墓)

によると「化学の勉強は、本を読むだけでなく、実験が大切です」15歳の高峰譲吉さんは、大阪の舎密(chemie(化学))学校で、ドイツ人のリッテル博士の授業をドキドキしながら聞いていました。舎密は、なんとおもしろい学問だろう——。譲吉さんは、医者をめざして医学学校でも学んでいましたが、実験がおもしろいので、たちまち化学に夢中になりました。そして、化学をもっと勉強したいという気持ちがおさえきれず、18歳のときに、新たに東京の工部大学校(現在の東京大学工学部)に入学し、勉強を続けたのです。』

※富山県教育委員会教育企画課 県ゆかりの国際人紹介HPより  
また、科学図書・情報センターが作成した「第18回化学会館化学史資料展示舎密局とハラタマ」にも理学所(旧名：舎密局)で教頭として理科学教育を行った事が紹介されています。

こうして直にリッテル先生と関わった方々のお話は、現在の我々にとってもリッテル先生を身近に感じる事の出来る貴重な文献です。

さて、そのリッテル先生のお墓はといいますと、私たち薬剤師会の先輩がリニューアルし立派になったゲールツ先生のお墓に比べると、上部の十字架が無くなり、墓碑の文字がほとんど読めない状態です。

墓参を終えて加藤昇一会長が「こちらなんとかしないとなあ」ともしていました。